
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

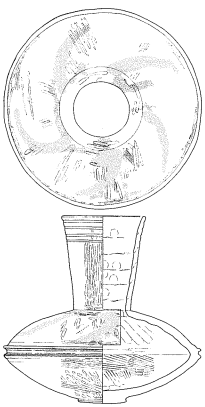
紀要

2001



2003年3月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



〔表紙〕津島岡大遺跡第10次調査
（保健管理センター）出土の細頸壺
（弥生時代後期 縮尺1/8）
〔裏表紙〕津島岡大遺跡第9次調査
（工学部生体機能応用工学科棟）
出土の鈴（縄文時代後期 縮尺1/6）

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要

2001

2003年3月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

2001（平成13）年度は、事務局本部棟と創立五十周年記念館の建設にかかわる発掘調査を実施しました。後者の調査は2002（平成14）年度が主体でしたが、両者合わせて約3200平方メートルという調査面積となりました。全国的には公共土木事業が減少し事前の発掘調査が減少傾向にありますが、本学ではなお施設建設予定地での発掘調査に急ぎ対応しなければならない状態が続いています。そのため、これまでの発掘調査において出土した資料の整理や報告書作成の作業にかなりの遅れがでており、2001年度に刊行し得た報告書が1冊もなかったのは遺憾でありました。重要な調査成果の正報告をできるだけ早い時期に刊行できるよう、今後とも工夫をかさねてゆくつもりです。

一方、調査成果の展示・公開については新たな展開がありました。2002年4月から文学部考古学陳列館の一部が新築なった文化科学系総合研究棟に移転するのにもなって新たに岡山大学考古資料展示室が開設され、本センターの保管する出土資料もあわせて展示することとなりました。文学部考古学講座においては、従来から弥生・古墳時代の墳墓の発掘調査が多くなされてきたほか、旧石器時代遺跡の調査や瀬戸内海海底産動物化石の収集が進められてきました。他方、本センターが調査対象としている本学津島地区では縄文時代遺跡と弥生・古墳時代の水田遺構が多く、鹿田地区では弥生時代から古代・中世に及ぶ集落遺構が多いという特色をもっています。本センターと考古学講座の調査対象は、遺跡の時代という点からも内容という点からもちょうど互いに補い合う関係にあり、考古資料によって歴史を復元するにはまことに適切な調査資料に恵まれたといえるわけです。2001年度の後半には本センターと考古学講座の関係者一同が展示の準備作業にあたり、2002年4月9日に無事開設式を迎えることができました。本学内外のできるだけ幅広い方々にこれまでの調査研究の成果をご覧いただければと願っています。

本年度の発掘調査実施にあたっては、事務局および岡山大学創立五十周年記念事業後援会のご支援をいただきました。その他事業にご協力いただいた方々も含め、各機関・各位にあらためてお礼申し上げます。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稲 田 孝 司

例 言

- 1 本紀要は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において2001年4月1日から2002年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果、及びセンターの活動についてまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に関しては、設定基準を次のように定めている。なお、以下で使用している座標系は「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」（以下「改正法」）施行前の日本測地系に基づくものである。
 - 1) 津島地区では、国土座標第V座標系（ $X = -144,500\text{m}$ 、 $Y = -37,000\text{m}$ ）を起点とし、同座標系の座標北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する（図5）。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系（ $X = -149,800\text{m}$ 、 $Y = -37,400\text{m}$ ）を起点とし、座標軸を $N - 15^\circ - E$ に振ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を基準として用いており、図で示す場合は一辺10m四方の方形地区割りを用いている。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標系の座標北を、他は磁北を用いている。
※なお、平成14年（2002年）4月1日より施行された改正法に基づき、世界測地系より算出した新座標から作成した設定基準は、刊行物では2003年度発行分から、調査では2003年度以降に開始するものから順次使用していく予定である。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については、全域を「津島岡大遺跡」と総称する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」「立会調査」に分類したものについては、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告によっていただきたい。「試掘・確認調査」については、本紀要での記述を正式報告に代える。
- 6 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 7 附表2に掲載する調査一覧については、中世層まで掘削したものを対象とし、その他については除外した。未掲載のデータについては、当センターにおいて管理している。
- 8 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表と一致する。
- 9 本文は忽那敬三・高田浩司・野崎貴博・光本順・山本悦世・横田美香が分担執筆し、執筆者名を末尾に記した。
- 10 編集は、稲田孝司センター長の指導のもとに、忽那敬三が担当した。
- 11 本紀要に掲載の地形図は、すべて国土地理院発行の1/25000「岡山北部」を複写したものである。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2001

目 次

第1章	津島岡大遺跡の調査研究	
第1節	発掘調査概要	1
	1. 津島岡大遺跡第26次調査（事務局本部棟・共同溝）	1
	2. 津島岡大遺跡第27次調査（創立五十周年記念館）	4
第2節	その他の調査	6
第2章	鹿田遺跡の調査研究	
	近世の櫛について	13
第3章	調査資料の整理・研究と展示・公開	
第1節	調査資料の整理・研究	16
	1. 調査資料の整理・分析	16
	2. 出土資料の保存処理	18
	3. 出土資料の科学分析	20
	(1) 津島岡大遺跡第19次調査の河道内堆積物の粒度組成分析	20
	(2) 津島岡大遺跡第23次調査出土木材の樹種同定について	22
第2節	調査成果の展示・公開	24
	1. 成果速報展の概要と傾向	24
	2. 考古資料展示の方法と実践	26
第3節	2001年度調査研究員の個別研究活動	28
	1. 科学研究費採択状況	28
	2. 資料収集実態調査	28
	3. 研究発表等	28
	4. 論文・資料報告	28
第4章	2001年度における調査・研究活動	29
附編		31
	岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	31
	1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程	31
	2. 2001年度埋蔵文化財調査研究センター組織	34
	(1) センター組織一覧	34
	(2) 運営委員会	34
	3. 2001年度審議・決定事項	35
	4. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項	35

附表	37
----------	----

挿 図 目 次

図1 第26・27次調査地点位置図	1
図2 第26次調査土層断面図・遺構全体図	2
図3 第27次調査土層断面位置図・土層断面図	5
図4 第27次調査5層上面検出遺構	5
図5 津島地区全体図	7
図6 今年度の調査地点（1）津島地区	9
図7 今年度の調査地点（2）鹿田地区	11
図8 鹿田遺跡第12次調査出土の櫛	13
図9 鹿田遺跡第12次調査 近世の遺構全体図	14
図10 鹿田遺跡第9次調査出土木簡	18
図11 三角座標による各資料の分類	20
図12 通過質量百分率と粒度との関係を示した積算曲線	21
図13 見学者の学内・学外の比率	24
図14 見学者の印象に残ったもの	24
図15 考古資料展示室展示配置概略図	26
図16 2000年度までの調査地点（1）津島地区	47
図17 2000年度までの調査地点（2）鹿田地区	49
図18 1998年度までの調査地点 三朝地区	50

写 真 目 次

写真1 櫛の出土状況	14
写真2 文字の残存状況	15
写真3 種子の選別作業	16
写真4 津島岡大遺跡出土種子	16
写真5 先端を焼いた痕跡	17
写真6 処理前の猿形木製品	18
写真7 切片の採取状況	23
写真8 井戸枠の説明風景	25
写真9 土器接合の体験コーナー	25
写真10 壁面ケースの展示状況	27

表 目 次

表1 2001年度調査一覧	6
表2 2001年度室内作業一覧	17

表3	第5期木器保存処理工程	19
表4	2001年度に外部処理を委託した遺物一覧	19
表5	2000年度以前の木器処理工程	19
表6	津島岡大遺跡第23次調査出土の自然木の樹種	22
附表1	1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	37
附表2	2000年度以前の構内主要調査（1983～2000年度）	37
附表2	-(1)発掘調査	37
附表2	-(2)試掘・確認調査	39
附表2	-(3)立会調査	40
附表3	収蔵遺物概要	43
附表4	埋蔵文化財調査室刊行物	44
附表5	埋蔵文化財調査研究センター刊行物	44

